

性善説を信じたい

高齢女性

それは、忘れもしない平成20年4月24日朝の出来事だった。

高校時代の同窓生との一泊旅行に出掛けるべく、折り悪く降りだした雨のなか、折畳み傘を開いてバス停をめざしていた。T字路にさしかかり、さほど広くない道を横切ろうとした瞬間、「ああっ」という男性の声もろとも、私は折畳み人形のように路面に倒れ、自転車の少年が心配そうに覗きこんだ。

動転してか、痛みも感じなかったが、立ち上がれず、行きずりの女性が救急車を呼び、少年の連絡先も聞いてくれた。そのまま病院に搬送され、4月28日に手術を受けた。大腿骨の骨折で100日を超える入院生活を余儀なくされた。

加害者の少年が保護者とともに病院に駆け付け、母親とその養父と名乗る人から、一家は生活保護の母子家庭の上母親が重い心臓病の闘病中と聞かされた。

生活は楽ではないが、治療費は分割でも払うので十分治して下さいと懇願され、同情してしまいました。

当方とて老齢の年金生活者で、ゆとりのある生活ではないけれど、将来のある少年を思いやり金銭の要求はしないことを約束した。少年には、過失は過失として忘れず自立したときには、こちらの善意を無駄にせず社会に還元してほしいむね伝え、少年も素直にならずいた。

入院期間中は少年の母親が毎週のように顔を見せ、その都度テレビが見れるカードを1枚ずつ置いていってくれた。

このようにして、加害者との関係も良好に保たれ、感謝されながら退院の日を迎えることが出来た。

その後厳しいリハビリ通院を続けていたが、平成21年2月11日に軽度ではあったが、脳出血をおこし、またもや2ヶ月間の入院生活を余儀なくされた。運悪く、怪我をした左側の手足に軽麻痺が生じ、現在も痺れがとれず、歩行もうまく出来ない状態である。交通事故の手術の際に入れた金属も高齢者ということで除去手術は施されず、そのために電気治療を受けられないという不便を被っている。あの少年も来春は高校を卒業するはず、真面目に勉学にはげんでいるだろうか。退院後はなんの連絡もなくすこし淋しく思うこの頃である。

なお、事故の際お世話になった女性の方の住所やお名前も個人情報保護の名目で教えていただけず、お礼も出来ず心苦しく思っている。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。